たね通信

12月

No. 11　2013年

発行 地域生活ケアセンター
小さなたね
【医療法人にのさかクリニック】

オープンハート

所長　水野　英尚

師走に入り、「あれも、これもやらなくては」と何だか慌ただしい毎日を過ごしています。

福岡市の油山の西側に「徳栄寺」というお寺があって、紅葉が綺麗だということで、先日、出かけてきました。小さなたねから車で5分程の所に、少し時期を逃したものの、これほど見事な紅葉が見られる場所があるとは知りませんでした。今後は、たねの恒例行事の一つになりそうです。

近くにあっても知らないで過ごしていることは意外に多いものだと改めて思います。一歩外へ出かけて行くことで、新たな発見は生まれるものなのでしょう。

小さなたねも3度目の冬を迎えています。多くの方たちに支えられて、歩み続けています。しかし、まだまだここでの出来事や取り組みを知って頂きたいと思いますし、私たちもまた地域に開き、出かけて行かなければならないのだと思います。

たねで過ごす人たちの力強さ、いのちの輝きを出来るだけ多くの人たちに知ってもらい、この喜びを共有したいと考えていますし、重い障がいのある彼（女）たちが地域で暮らすためには、そこに住む人たちとの出会いから生まれる理解と協力が必要です。寒くなり体調に変調を来しやすい時期ですから、どんどん出て行くことは難しいのですが、それでも、オープンハートを心掛けて外に発信して行きたいと思います。

この国は「秘密」や「保護」の下に、それとは反対の方向に舵をきろうとしているようですが、守るべきものを内側に隠していては、共感も感動も生まれてこないのです。

自然のグラデーションの美しさ

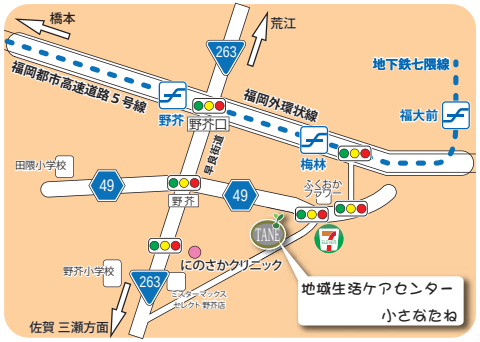
小さなたねの物語が描かれたステンドグラス（グラスアート TAKAMI 製作・寄贈）

たねナースのつぶやき

私がたねに来て、早いもので6カ月が経ちました。仕事にも少しずつ慣れて、お母さんたちとお話しできる喜びを感じています。

「たねのおかげでゆっくりできた！」と言ってもらえることもあります。私もお休みの時、たねに子どもを預けて、一人の時間を過ごさせてもらっています。〝レスパイト〟できることを嬉しく思います。

今年ももう終わり、来年もみなさまにゆっくりと利用してもらえるよう、頑張っていきます。（羽太）



医療法人にのさかクリニック
地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814－0172　福岡市早良区梅林６-23-３
電話 092-874-3051　FAX 092-874-3052
E-mail：chisanatane@tune.ocn.jp
ブログ：http://chisanatanetane.blog.ocn.ne.jp/blog/

後記

紙面作成のＥです。お正月は子どもたちと隣県の実家で過ごす予定です。ここ数年、父が小６の息子（重心障がい児）を施設に預けたらと言うようになりました。息子を「ヨイショ！」と抱えあげる私の体を心配しての言葉だとは、分かっています。でも私はその話が出るたびにイヤな、悲しい気分になる…。だから、とりあえず実家では、そんな話が出ないよう、なるべく軽々と息子を抱え上げたりして頑張ってしまいます。親子の関係って難しいです…。　（Ｅ）

受動から能動へ

社会福祉法人重症心身障害児（者）を守る会の三原則は「①決して争ってはいけない　争いの中に弱い者の生きる場はない　②親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加する者は党派を超えること　③最も弱いものをひとりももれなく守る」です。この会は1964年、重症児家庭の親たちが、その生活の実情を社会に伝えるための運動体として組織されました。今や全国組織となり、間もなく半世紀を迎えようとしています。

このような運動から立ち上がってきた「重症心身障害児（者）施設」は、時代とともにそのニーズも変わってきています。当時は平均年齢が7歳代で、20歳を越える人はほとんどいない状況であったのが、今では平均年齢40歳を越えています。そして、全国に重症児（者）がおよそ4万3000人おり、そのうち3分の2が在宅で暮らしているそうです。さらに、NICU（新生児集中治療室）で一命を取り留め、人工呼吸器等が離せない「超重症児」となる子どもたちが急増している状況です。

国が〝施設から在宅へ〟の移行を促す方針を打ち出している中で、重症心身障害児（者）施設の役割は、緊急時の保護的な入所機能は維持しつつ、これまで重症児（者）のケアに関して蓄積されたノウハウを生かした、地域在宅支援のセンター的な機能が求められています。福岡市内には、こういった児者を一貫して支える重症心身障害児（者）施設は無く、各事業所が機能（医療・リハビリ・通所・在宅支援等）を分散するような形で、当事者たちが年齢や医療ニーズの有る無しによって利用している状況です。つまりそれは、保護者（主に母親）のケアマネジメント能力が高ければ上手にそれらを利用することができ、逆にそれが低くければ十分な支援も受けられず、ケースによっては閉じこもりがちになってしまうということもあるようです。

これまで重症心身障害児（者）施設は、「病院であり家庭でもある」という機能を併せ持った機関を目指して

12 2013 DECEMBER

たねすけじゅーる

日	月	火	水	木	金	土
1 休	2	3	4	5	6	7
8 休	9	10	11	12	13	14
15 休	16	17	18	19	20	21
22 休	23 休	24	25	26	27	28
29 休	30	31 休				

たね食堂　（毎週水・金）

「楽塾」訓練会……18日（水）9：30～（19：00～学習会）

＊＊小さなたねの冬休み＊＊

12月31日（火）～1月5日（日）

よいお年を…

きました。それは医学モデルと社会モデルが統合された場所です。一人の障がいのある人を前にして、どのような専門的治療や介入が必要であるかを考え、それを実践し変えていこうとすることが医学モデルです。一方、社会モデルは、生活の場における環境の整備と具体的な支援を豊かにしていくことで、より充実した生活となると考えることです。そのような医療モデルや社会モデルを別々にして、切り刻んで「医療」や「福祉」の名の下に事業化したものを当事者や家族が繋いでいくのではなく、一人の人間の全体像を描きながら、双方のバランスを保ちつつ関わり続けていくことを大切にした支援のあり方を創り出していかなければなりません。

今後の在宅支援における展望を考えますと、センター機能として総合的に集中させた一施設に利用者が訪ねるという「受動的」な構図だけでなく、個別ニーズの高い在宅では、当事者や家族にとって必要な支援の提案を「能動的」に提供する仕組みが必要だと思います。そのために、的確なケアマネジメントが出来る人材と、在宅支援を行う診療所や訪問看護ステーション、介護事業所、そして基幹病院などがこれまで以上に連携することが求められます。

この地域、この街で暮らしたい

センター機能を持たないこの町では、小さな在宅支援事業所との出会いによって、何とか在宅生活を維持しているといったケースは少なくありません。各事業所は、その小ささゆえにフットワーク軽く、柔軟に対応することで、ニーズに応え奮闘しているのです。他事業所間での連携や多職種協働という理想的な働きになるにはまだまだ課題が多いのですが、まずは、そのような意識を持つことを大切にしたいと思うところです。

生活は一日一日の積み重ねです。今日も、重い障がいを持ちながら懸命に生きる人たちや、それを支える家族がいます。時間は止まってくれません。目の前で支援を必要としている方の、医療モデルと社会モデルを描きながら、能動的に支援を行っていきたいと思います。

小さなたね

クリスマス会 & お餅つき

12月23日（月）
10：00～15：00

今年も小さなたねでは、
クリスマス会とお餅つきを行います。
日頃の感謝を込めて、
出来上がったホカホカのお餅は
食べ放題です！
また、残りは皆さんで
持ち帰っていただきます。
クリスマス会では
ミニコンサートやバルーンアート、
プレゼントもあります。
皆さん、どうぞお越し下さい。

本の紹介

『両親の集い』

社会福祉法人 全国重症児(者)を守る会 会報

＊お問い合わせ先

全国重症心身障害児（者）を守る会本部事務局
〒154－0005　東京都世田谷２の30の９
電話：03－3413－6781　FAX：03－3413－6919

1960年代前半、「障害が重く社会に貢献できない者に国のお金は使えません」という情勢の中、親たちの「どんなに障害が重くても、真剣に生きているこのいのちを守って下さい！」「社会の一番弱い者を切り捨てることは次に弱い者が切り捨てられることになって、社会の幸せに繋がらないのではないですか」という切実な訴えは、人を動かし、国を動かし、新たな制度がつくられ、重症児（者）における福祉制度の礎となりました。

時代が変わり、制度も変わりゆく中で、先輩方の築いたものを、より豊かなものにしていくことが、後任の私たちの務めであると思います。

「この子らに世の光を」から「この子らを世の光に」、そして「この子らは世の光」なのです。

子どもとの日々

苦笑い日記 10

高橋 厚子
娘は脳性マヒ・関節拘縮症
特別支援学校中学部２年生

生き発

娘が通学している特別支援学校の大イベント『生き生き発表会』が今年も11月に行われました。私は、この通称『生き発』が大好きです。

ところが、今年の『生き発』の前日、娘の痰が激増し、一日中、痰吸引することに。当日朝も痰は治まらず、欠席か…と、あきらめかけた出番一時間前、少し落ち着いたので、「今だーっ」とギリギリで登校。セーフ（汗）。

中学部の発表タイトルは『今津大運動会』。競技の中で、一人ひとりの得意な動きが披露されました。最後は『女々しくて』にのせて全員でダンス♪。娘は手足を動かして踊ることはできないけれど、先生にバギーを回してもらったり、「ヘイ！」の掛け声のところで「あー」と声を出したり、にっこり笑ったり。

発表後、〈やりきったわ私〉という顔をしていました。そして、そのまま早退（汗）。

来年も、どうか参加できますように！

ひじでボールをカゴに落として笑顔

中学部は全員で20名
みんながんばったね～と記念撮影